

## 〈三郷学の視点⑪〉

### 三郷学の視点

#### 5. つなぐ〈③友好都市、災害時相互応援協定と社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)〉

3月11日に発生した東日本大震災及び福島第1原子力発電所の事故により、三郷市と災害時相互応援協定を締結している福島県広野町は大きな被害を受けました。三郷市では協定に基づき、3月12日には、水、食料、毛布等の支援物資を広野町に届けました。さらに、3月17日にバス6台を手配し、広野町の町民のかたを瑞沼市民センターに開設した避難所へお迎えしました。広野町のみなさんは、この避難所をはじめ、市内の家庭にも身を寄せられています。

被災地の広野町では、地震の発生後、上・下水道が利用できないだけでなく、さらに電気も使えないなど日常生活が困難な状況とのことでした。その後、電気の代わりに利用していた乾電池も底をついてしまったとの連絡がありました。三郷市でも備蓄用乾電池の支援をするとともに、友好都市協定を締結している奈良県三郷町に支援を依頼し、即座に三郷市を通じ、乾電池を広野町に届けることができました。

これまで三郷市が進めてきた友好都市協定に基づくスポーツ交流や産業フェスタへの参加などの取り組みが社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)の創出に役立ち、今回の東日本大震災で被害を受けられた地域への支援につながりました。

※社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)とは、社会の効率性を高める、「信頼」「規範」「ネットワーク」のことをいいます。

